

津奈木中学校・小学校卒業式フォトリポート

飛び立とう、 未来信じて—



児童から保護者へこれまでの感謝の気持ちがこめられた表彰状が贈られた

6年間の思い出が詰まった校舎を卒業生27人が巣立って行きました。船場孝洋校長は「小学校と中学校の最も大きな違いが『進路に対する意識』。どんな自分になりたいか、家族や先生と話し合い、最終的には自分で決断しなければなりません。自分の強みを伸ばし、社会の変化に対応し、夢実現に挑戦する人に成長できることを願っています」と式辞。卒業生たちは「いつも温かく見守ってくれたおかげでここまで大きくなることができました。これからは夢と希望を胸に、羽ばたきます」と保護者や恩師たちへこれからの目標と感謝の言葉を贈りました。



3月21日(木)
津奈木小学校卒業式

卒業生37人が共に歩んできた友人や恩師との別れを惜しみながら、希望を胸に新たな一歩を踏み出しました。昨年新型コロナウイルスが5類に移行したことを受け、4年ぶりに在校生全員も参加しました。高橋裕二校長は「多くの制約がある中始まった中学生活だったがさまざまな活動に力を注いでくれた。どんな道に進もうと自分らしく夢に向かって前進してほしい」と式辞。卒業生代表の林侑紀斗さん（倉谷）が、「たくさんの思い出を残すことができたのは、最後まで支えてくださった人がいたから。先生の教えを心に刻みこれからも頑張りたい」と決意を述べました。



3月10日(日)
津奈木中学校卒業式



屋外には巨大な卒業証書が登場。仲間と記念撮影を楽しんだ